
私、こういう者（死神）です

りったん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私、こういう者（死神）です

【Nコード】

N6917M

【作者名】

りったん

【あらすじ】

ここはどこ？ 私是谁？

(前書き)

ここはどこ？ 私是谁？

は。

あれ？

私、確か、通学途中、トラックに跳ねられて、グシャって地面に叩きつけられたはずなんだけど？

おかしいな。

顔を思い切りアスファルトにぶつけたような気がしたのに、血も出てないし、怪我もしてない。

なあんだ、夢だったんだ。

良かった。

さてと、学校に行かなくちゃ。うん？ 私ってば、制服のまま寝てたの？

あれ？ 何だ、ここ？ 一面お花畑。

どこよ？

「ああ、気がつかれましたか」

男の人の声がした。

「じゃ、じゃ、じゃあ、ひょっとしてもしかして、まさかとは思いますが、私、死んじゃったの!？」

私は死神の襟首をねじ上げて怒鳴った。死神は苦笑いをして、

「貴女の生きていた世界では、そういう言い方になりますね」

「……」

私は啞然とした。すると死神は、

「さつきり みちる 笹霧美智流さん、高校二年生。享年十七歳ですね」

と楽しそうに言う。

「あんだねえええええ!」

私は更にそいつの襟首をねじ上げた。そいつは苦しそうに、

「や、やめて下さい、苦しくて死にそうです……」

と言った。

「死神が死ぬのか、この!」

私は泣きながらそいつの襟を放した。

「はい、死にますよ。できればそうして欲しかったのですが」

「はあ？ 死神が死にたいの？ ふざけないでよ」

とことん人をおちよくっている。バカにしないで欲しい。

「死神は誰かに殺されると、その人の代わりに生き返って、その人の人生を引き継げるんです」

「……」

全身に鳥肌が立つ。という事はよ、この冴えないおっさんが、私の身体を借りて、女子高生として生きるって事？

「冗談じゃないわ！」

「はい、冗談ではありません」

そいつはふざけた様子もなく、ニコニコして言った。

「じゃあさ、あんたが私を殺してくれれば、私が生き返れるのよね」

「それはできません。生き返る事ができるのは、死神の特権なんです」

「そんなあ」

私は脱力した。

「ですから、あなた方には、死神候補生として研修を受けていただきたいのです」

私は急に希望を見出した。

「じゃあさ、研修受けて、死神になれて、誰かに殺してもらえれば、生き返れるのね？」

「はい、そういう事です」

死神は相変わらずニコニコしたままで答えた。

「よし、頑張るぞ！」

私は自分が死んでしまったのを忘れて、死神研修に燃えていた。

そして、しばらくして知ったのだ。

それは方便なのだ。

私も死神になり、死んだばかりの女性に同じ事を言った。

「死神になれば、殺されると生き返れるのですよ」

そんな風に騙さないと、最近の死んだ人達は、素直に自分の死を認めないのだそうだ。

あの世まで、嫌な「世の中」になってしまったのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6917m/>

私、こういう者（死神）です

2010年10月28日04時22分発行